卷頭言

第78回日本医学放射線学会総会 開催にあたって

第78回日本医学放射線学会総会 会長 熊本大学大学院生命科学研究部 放射線診断学分野 教授 山下 康行



山下 康行 先生

要旨

第78回日本医学放射線学会総会は、2019年 4月 11日(木)から14日(日)迄の4日間、パシフィコ横浜にて、第75回日本放射線技術学会総会学術大会、第117回日本医学物理学会学術大会の学術3団体の大会および国際医用画像総合展(ITEM 2019)との合同で、JRC(Japan Radiology Congress) 2019として開催されます。

JRCは、放射線科医のみならず、他領域の医師、診療放射線技師、物理学者、生物学者、薬学者、工学者などが一堂に会し多方面から最新の研究成果を発表し討論する場であり、今回も2万人を超える入場者が見込まれます。学術集会と機器展示の合同開催が誕生して、今年のJRC2019学術大会は31回目

ですが、平成最後のJRCとなります。このような長い歴史のあるJRCは、これまでに放射線医学関連の重要な3学会と日進月歩で進歩する放射線医療機器を同時に展示することにより、学会員ならびに放射線医療に従事する、あるいはこれを目指す若い研究者や放射線医療関係の人々に対して将来の放射線医療の姿を示す羅針盤としての大きな役割を果たしてきました。

今年のテーマは"革新的な放射線医学を一患者に寄り添って— Innovative Radiology close to the Patients"としました。人工知能 (artificial intelligence: AI) が放射線医療の中に深く浸透し、ますます大きく発展しようとする一方、患者中心の医療を忘れてはならないという気持ちを込めてこのようなテーマ



Fig.1 JRC2019ポスター



としました。

放射線医学の発展には技術革新につながる質の高い研究が必須であるとともに、質の高い教育によって、優れた人材を育成する必要もあります。そして、質の高い研究と教育で裏打ちされた放射線診療を広く普及させ、多くの人が放射線医学の恩恵を受けることができる社会をめざして学会を開催いたします。プログラムの編成では最先端の診断・治療に関係する研究発表に加え、一線病院で勤務する中堅の先生方にも明日からの診療に役立つシンポジウムや教育講演、さらには放射線科医として活躍を始めた研修医に対する教育セミナーなど、メインテーマに沿って多彩な内容を企画しています。また新たな専門医制度に対応すべく、教育講演や必須講習会に加え、多くのシンポジウムも、専門医更新のための単位取得に活用できるよう、準備を整えております。

1. はじめに

日本医学放射線学会(JRS)は、1950年に設立さ れた歴史ある学会です。2018年2月現在で9511名 の会員を有する世界的にも大きな放射線医学会の一 つです。最近では海外の放射線医学諸学会との交流 にも力を注ぎ、世界に向けてのアピール活動も活発 に行っています。JRS総会は、毎年春に開催される 放射線医学全般を網羅する学術集会で、約5000名 におよぶ全国の放射線科医が参加します。毎回優れ た研究成果が発表されるため、社会の関心を集め、 高い評価を得ています。放射線医学の発展に伴う質 の高い研究が技術革新をもたらし、最近ではAIも 放射線医療の中に深く浸透し、ますます大きく発展 しようとしています。今後も私どもは革新的あり続 けると信じております。その一方、我々は患者中心 の医療を決して忘れてはなりません。このような気 持ちを込めて、今年のテーマは"革新的な放射線医 学を一患者に寄り添って― Innovative Radiology close to the Patients" としました。

2. 会期ならびに会場

2019年4月11日(木)から4月14日(日)の4日間、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜において、第78回JRS総会を開催いたします。学会の基本的レイアウトは過去数年の総会を踏襲しています。いくつかの会場では英語のセッションが常に設けられていま

す。合同シンポジウムや特別講演などは、大きめの 会場を用意しました。一方、新専門医制度に伴う継 続的教育の必修化に伴って教育講演や必須講習会も 多くの聴衆が見込まれますので、アネックスホール や国立大ホール等を用意しました。本学会に参加さ れたすべての方が、日常の研究・教育・診療に役立 てていただくとともに、放射線医学の発展に寄与で きるよう配慮したいと思います。

3. 参加登録

参加登録費は会員13,000円, 非会員20,000円, 学生1,000円です。

4. プログラム

学術3団体およびITEMの合同企画として、4月12日(金)にITEMの開会式からスタートします。この展示会は医療関係者が最新の医療機器の進歩や多くの可能性を自分で直接確認できる場所であり、今後の放射線医療の方向性を知るうえでも重要な機会でもあります。このITEMは、放射線医療を支える医療機器メーカーや安全な造影剤の開発を目指す製薬業界など多くの企業の協力により開催されており、心から感謝申し上げたいと思います。

4月12日(金)の午後より開催予定のJRC2019の開会式では、主催者を代表して3学会の大会長ならびに日本画像医療システム工業会の会長から各団体の今後の将来構想や方向性に関する講演を予定しています

引き続いて行われる3学会の合同の特別講演では、 著名なAI研究者である東京大学大学院工学系研究 科の松尾豊先生をお招きし「人工知能の進展と医療・ ヘルスケアにおける可能性」についてお話しをして いただく予定です。

3学会の合同シンポジウムでは

- 1. Value-based Imaging:AI時代を見据えて
- 2. 人工知能 (AI) を用いた革新的な放射線医学
- 3. 機能性画像と放射線治療

の3つを予定しています。来たるべき AI時代を見据えた新しい放射線医療を予感させる未来志向のシンポジウムになると思います。また、3学会の合同教育セッションとして「脳腫瘍の診断から治療まで」ということで、病理から画像診断、臨床、治療

まで包括的に学べる場を設けました。さらに3学会 の合同特別企画としてハーバーラウンジにおいて ディープラーニング ハンズオンセミナーを4月12 日(木)から4月14日(日)の3日間連続で開催いた します。JRSとしては、名誉会員の表彰式(Honorary Member Award Ceremony)を 3学会の合同開会式 後に行い、国内外の名誉会員を顕彰いたします。

JRSとしてのシンポジウムは次の12の企画をし ました。

シンポジウム1 放射線診療と医療安全

シンポジウム2 Radiogenomicsの現状と展望

塞栓術の新たな展開 シンポジウム3

シンポジウム4 セラノティクスによる個別化医 療の未来

シンポジウム5 NAFLD (非アルコール性脂肪性 肝疾患)/NASH(非アルコール性

脂肪肝炎) の臨床と画像診断

シンポジウム6 腎障害患者におけるヨード造影剤

使用に関するガイドライン2018

シンポジウム7 放射線治療はどう変わってきた か, そしてどう変わっていくか?

シンポジウム8 AI時代の放射線診断医

シンポジウム9 超高齢化社会における画像診断

シンポジウム10 放射線治療の適応拡大に向けた 新たな展開

シンポジウム11 虚血性心疾患の治療戦略~形態 と機能の相補的診断の重要性~

シンポジウム12 分かりやすいIVRにおける放射 線防護の話

いずれもメインテーマに沿った学会員ならびに関連 領域の皆様にとって非常に興味深いホットなトピッ クスかと思います。

その他、JRSの特別企画として

- ・JJR編集部からの教育講演
- ・JCRアワー:放射線科の医療安全を考える
- ・AI企画・実践講座
- ・男女共同参画・ダイバーシティ推進関連講演会

その他, QIBA (Quantitative Imaging Biomarkers Alliance) のシンポジウムや韓国放射線学会 (KCR) と のジョイントシンポジウム (Brain circulation, conduction, and connection: this is how we visualize it and we

do it damn good!), AOSOR とのジョイントセッション (Recent Topics in Musculoskeletal Imaging) など、 国際的なシンポジウムも多数予定しております。

教育講演は例年通り、38の講演を一般診断、核 医学, IVR, 治療領域で用意しております。また必 須講習会は医療安全や、放射線防護、医療の質、医 療倫理、感染対策においてその領域のエキスパート による講演をお願いしました。教育講演や必須講習 会は専門医更新のための単位取得においてポイント 化され重要性が非常に高くなっており、昨年度は大 混雑でしたが、できるだけ混雑を緩和する方策を 色々と練っております。一方, 研修医対象のセミナー として救急画像診断入門と放射線治療の実際を取り 上げ、若いドクターに対して放射線科への関心を高 めてもらいたいと考えております。

恒例のImage Interpretation Session は二名の我が 国を代表する女性の放射線科医の司会のもと、九州 の各大学で選んでいただいた選りすぐりの症例を全 国の新進気鋭の放射線診断医に読影していただきま す。例年通り、土曜日の夕刻、メインホールにて画 像診断の醍醐味を味わっていただけると思います。

学会で最も重要な一般演題にも今年も多数の演題 が寄せられております。発表形式は、一般演題(口 演), 一般演題(電子ポスター), 教育展示, 実機展 示発表の4つに分けられます。ここでは最新の研究 発表がなされ、ホットなディスカッションが予想さ れます。抄録集や発表スライドは原則英語になりま す。口演も約35%が英語化されています。一般口 演に先立って海外演者による Key Note Lecture も 企画しております。こうした試みで海外からの参加 を容易にし、国際化を推進することが目的です。一 方、教育講演や研究発表の一部は日本語が使用され ます。

5. 市民公開講座

各国の放射線学会は、後に第1回ノーベル物理学 賞を受賞したドイツのレントゲン博士がエックス線 を発見した日にちなみ11月8日を「レントゲンの日」 と定めています。エックス線の大発見が放射線医学 発展の礎となり、現在では、超音波、磁気共鳴など も用いる「画像診断」や、さまざまな放射線を利用し

卷頭言

て癌治療を行う「放射線治療」、さらには診療技術を利用して癌治療のみならず救急救命に応用される「画像下治療 (IVR)」などの放射線診療が最新の医療として行われていることは皆様ご存じの通りで、市民の皆様への啓発も我々の重要な使命と考えております。

2018年10月14日(日), 熊本市において「がんの発見, 診断そして治療 〜放射線診療についてとことんお伝えします〜」と題して市民公開講座を開催しました。この公開講座では, 熊本大学医学部附属病院で活躍する放射線診断専門医および放射線治療専門医による講演を行いました。そのプログラムの概要は下記の通りです。



Fig.2 市民公開講座ポスター

第1部

- 1. レントゲン博士の発見と現代医療への貢献
- 2. CT で体のなかを見てみましょう
- 3. 大腸もCTで調べられます CTコロノグラフィ
- 4. MRIで体のなかを見てみましょう
- 5. PET検査でがんの診断はこんなに変わる!第2部
 - 6. 画像を使ってがんを治すインターベンション治療 〜血管のなかから治します
 - 7. 画像を使ってがんを治すインターベンション治療 〜焼いたり、凍らせたりして治します
 - 8. 放射線治療は身体に優しいがん治療です

尚,詳細は熊本大学放射線診断学分野HPにて公開し,PDFをダウンロードできるようにしております。

6. おわりに

日本医学放射線学会総会は、放射線医学全領域を 網羅する学術集会であり、多分野から最新の研究成 果や医学教育の報告のほか多数のシンポジウムが開 催されます。また、日本国内のみならず、海外から の研究者も多く参加され、質の高い討論が行われま す。今回の学会では余り派手な企画はできるだけ押 さえて、学会の本来あるべき姿である学問に触れる 機会をできるだけ多くしたつもりです。学会に参加 されることで、日常診療に忙しい先生方も最新の知 識を吸収できると同時に、未来の放射線医学につい て考える契機になると思います。多くの方々のご参 加を心からお待ち申し上げます。春の横浜で多くの 皆様のご参加を心から願っております。



Fig.3 市民公開講座の様子